

特集 SPECIAL FEATURE

東京理科大学キャンパス再構築

我が母校、東京理科大学はキャンパス再構築の真っ最中です。

市谷田町では10号別館が新築完成、隣接する10号館が改装中、船河原の薬学跡地では新5号館が工事中です。そして本丸の神楽坂地区でも再構築計画が進行中なのです。神楽坂地区は、1号館、6号館を除くすべての校舎を解体、新2号館(仮称)として統合新築する



新2号館外観のイメージ

平成17年 築理会総会・懇親会のお知らせ

今年の築理会総会・懇親会を下記の予定で開催します。皆様お誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

尚、総会終了後、午後5時より同会場にて懇親会を開催いたします。引続きご出席の程お願いいたします。

日時：平成17年5月14日(土曜日) 午後4時
 場所：理窓会館(神楽坂2-13-1)3階会議室
 理窓会館事務所 電話 03-3260-0725

会議の目的事項

- 第1号議案 会則改定の件
 - 第2号議案 平成16年度決算承認の件
 - 第3号議案 平成17年度予算承認の件
 - 第4号議案 役員変更の件
- 当日配布資料をご参照下さい。

懇親会会費

- ・終身会員 6,000円 一般会員 4,000円(当日支払い)
 - ・5月7日までに振替の場合は1,000円引き
- 振替方法(郵便振替 築理会 00110-5-171952)

また総会懇親会と同時に次の会も開催いたします。

- ・終身会員懇親会
- ・同期会懇親会

卒後20年(1985年卒業) 30年(1975年卒業)

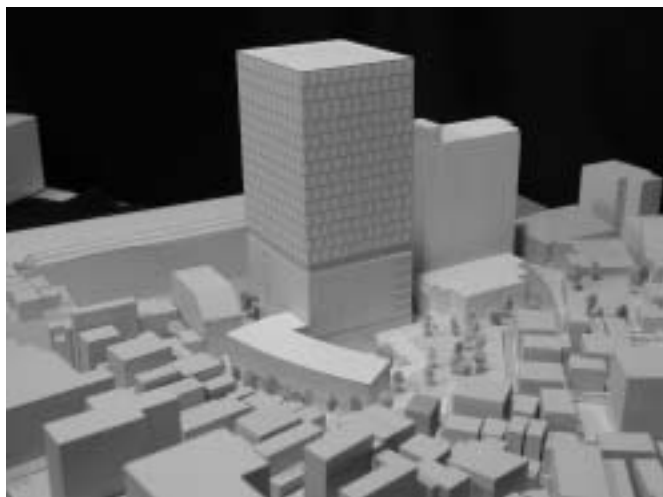


新2号館中庭のイメージ

予定です。解体される3号館、7号館、8号館はなんと築40年前後、2号館においては築48年の超高齢の建築物なのです。

新2号館のイメージは、外堀通り沿いの高層棟（SRC地上19～21階、地下2階）と低層棟（SRC地上3階、地下2階）で構成され、有効面積約37,500㎡の建築で、2006年10月着工、2009年3月オープンを目指しています。高層棟と低層棟の間には中庭が、敷地周囲には緑化された外部空間も計画されています。敷地は、現在の車道によって分断された状態を再整備して、地域住民と学生のための歩行者空間を確保しつつ一体化したキャンパスとなる計画です。また、敷地周囲の道路は拡幅整備を行い、緊急車両等が通行できるように検討を進めています。

キャンパス再構築の設計は、コンペで選ばれた「東京理科大学建築設計連合体」が担当しています。設計連合体は本学の卒業生で構成される設計共同体で、石橋利彦氏（工学部 部5期）広谷純弘氏（工学部 部15期）松本剛氏（工学部 部17期）と杉浦伝宗氏（理工学部5期）のチームが計画・意匠を担当し、佐野吉彦氏



新2号館イメージモデル

（工学部 部14期）率いる安井建築設計事務所が構造・設備設計を担当するグループで、他に経営工学部OBの小西敏治氏が参加しています。

代表の石橋利彦氏（工学部 部5期）のお話をお聞きました。「コンペで選ばれた案は、コンペの条件として与えられた事項への回答であって、各社とも地元の人々や行政との話し合いができない状態でのアイデアであった。我々の案はコンペ時から地元との共存を打ち出していたので、選ばれた後はコンペ案にこだわらず、地元の意見を聞くことからスタートした。当初はいろいろな摩擦もあったが2年が過ぎ、設計者と地元と一緒に考えるという雰囲気も出てきていると思う。神楽坂地域は、地区計画を整理した上で、開発を行うことが定められた地域である。また文化的な意識の高い地域でもあり、当然地元の人々の関心も高い。これに対し真摯に応えることが理科大OBとしての使命だとも思う。当初我々は、広い雑木林のような外部空間がこの地域にふさわしいと考えていた。それは神楽坂周辺が公園等の緑地の少ない地域だからである。しかし地元の反応は少し違っていた。神楽坂は坂と路地の町である。広い空地ではなく、既存の路地形状を保ちながら、適度な緑地がふさわしいとの価値観もたれていた。熱海湯通りと呼ばれる道に低層棟を配したのも、この意見を尊重したからである。また防火水槽の確保を含め、理科大のキャンパスを神楽坂地区の都市防災拠点として地域に貢献できないかと模索中である。」とのことであった。

石橋氏に建築の構成について説明いただいた。「高層棟は低層部に教室を配し、エスカレーターとエレベーターの両方でアプローチできるように配慮し、上部は研究室で構成されている。また、学生ホールや図書館、講堂、大型の実験室などが計画されている。低層棟は1階がピロティーで、熱海湯通りから中庭に自由にアプローチでき、1.6号館との間の路地空間や周囲の道路沿いの緑地などを周遊できるような立体的なキャンパス計画である。」

たくさんの模型やパースを見せていただいたが、随所に学生のたまり場や出会いの空間が用意され、なかなか楽しそうなキャンパスのようだ。築理会としても新しい神楽坂キャンパスの完成を心待ちにしたいところである。

地元への計画の説明や意見交換の様子は、理科大と地元の人々とで構成する「理科大再構築を考える会」のホームページで見ることができる。

<http://www.ridai-kangaerukai.jp/>

（会報委員会）

不定期連載 現場へGO!

OBを頼りに、気になる現場を訪問してプロジェクトをレポートするこのコーナー。今回は、理科大の薬学校舎跡地に建設中の新5号館建設現場を紹介します。作業所長を務める 部18期の長門徹郎氏（大成建設）に現場を案内していただきました。

「東京理科大学 新5号館」

飯田橋の駅から市ヶ谷方面に1kmほど行った薬学校舎の跡地。体育館が併設されていたので行ったことがあるOBも多いだろう。外堀通りから急な坂道が上がると、研究室に泊り込んだときなどにこっそりと体育館横のシャワー室を使っていたころを思い出す。ここに理科大の新しい校舎の建設が進んでいる。

新校舎は地上4階、地下4階建てのSRC造で、延べ床面積は約1万m²。理化学の研究室のほか、地下に体育館が設けられる。設計は東京理科大学建築設計連合体(前述)が担当。施工者は大成建設・熊谷組・前田建設



作業所長を務める長門さん（部18期）に現場を案内してもらった

JVだ。OBである長門氏が作業所長を務める、まさに理科大生(元)による理科大生のための建物だ。

「OBとして理科大校舎の建設現場に携わるのはどんな気持ちですか」と尋ねると、「嬉しさ半分、怖さ半分というかんじですかね」と長門氏は笑って話してくれた。長門氏は大学卒業後に大成建設に入社し、事務所ビルを中心に現場に携わってきた。「大学時代はサッカー部に入っていました。部室があったこの校舎には、20年以上前は、ほぼ毎日通っていたので、思い出がたくさんあります」と話す。

建築材料学の清水研究室で引っ張りクリーブの研究をしていた長門氏。「研究が生かせるといいなと思いながらこの現場に臨みました。もちろんどの現場でも安全や品質には細心の注意を払っていますが、特にこの現場では気合いが入ります」と言う。

この現場の大きな特徴であり、最も大変なところは12mもある敷地の高低差の激しさだ。南東側の前面道路からは地下1階フロアにエントランスが設けられ、北西側は地上3階フロアからアクセスすることになる。工期が26.4カ月と短いこともあり、この現場では逆打ち工法が採用された。

まずは地下1階フロアのスラブを先行してつくり、地下の掘削を進めた。掘削した土は、採光と排煙ス

ペースを確保するため設けられた吹き抜けと、スラブに開けた掘削用の開口から運びあげた。地下の掘削と並行して地上階の鉄骨を組み上げていく。私が現場を訪ねたときには地下の掘削が終わり、地下4階の体育館が姿を現していた。「やっと最下層までたどり着きました」と長門氏は感慨深く体育館を見渡す。

長門氏にこの建物の見所を聞くと、地下1階のエントランスから続く中央の吹き抜けに案内してくれた。上部はトップライトになっていて、シースルーのエレベーターやガラスの手すりの階段が設けられる予定だ。6層分吹き抜けた大空間に、軽やかな階段がリズムを与える。

もう一つのお勧めポイントは、地上3階に設けられた学生ホール。2階層吹き抜けのこのホールは、お堀に向かって開かれている。ガラスのカーテンウォールを通して景色が広がり、お堀沿いの桜並木も一望できる。ホールから繋がる屋上のテラスには屋上緑化も設置されて、緑あふれる学生の憩いの場になるだろう。緑の少ない校舎で過ごした私にとっては、うらやましい限りだ。新校舎は2005年8月末に完成する。都心のおしゃれな大学に通う理科大生を覗きに、ぜひ完成後もこようと思う。現役生には申し訳ないが、にわかキャンパスライフを満喫させてもらえることを楽しみにしている。
(東 有紀=会報委員会)



地下に設けられた体育館。左上の膜が張られている部分から掘削した土を取り出す



新5号館イメージモデル

築理会活動に期待する

鉄建建設(株) 執行役員
森本 仁(1966年卒)

東京理科大学工学部建築学科が設立されてから今年が43年目。在学中に新潟地震を経験した、1期の卒業生が社会に出てから39年になります。すでに、卒業生が還暦を過ぎ、昨年は学生当時を思い出させるような、中越地震に遭遇し、大地震のたびに、建築の仕事の重要性を感じます。

築理会では活性化を目指して、この2年間、幹事の皆様のご協力を得ながら活動してきました。一般に、同窓会活動は、何処の大学でも活発に行われているとは聞きません。本学の同窓会であり「理念会」も近年会員の減少に課題があります。こと、築理会に関しては、卒業会員としては5000名を越えるまでになり、業界の第一線で活躍される方が年々増加しています。しかし、一方で、会員同士の連携や、絆があまり感じないのが、理科大学の卒業生の特長ともいえます。

さて、築理会をもっと活発にするにはどのようなことをすればよいか、常任幹事の皆様と色々なことを考え、実施してきました。過去2年間を振り返ってみます。

1. 「企画総務委員会を充実」させ、築理会の「懸案課題」は常任幹事会に架ける前に、FD(フリーディスカッション)やWG(ワーキンググループ)で十分討議をして、企画総務委員会で、「築理会の運営方針を常任幹事会に提案する」ようにしました。

2. その結果、築理会の意思決定期間であります、常任幹事会は、委員会で効率よく討論、意見交換ができるようになり、「常任幹事会の委員会効率」をあげ、委員会出席者は、会議最後に、テーマを決めて、懇親会をおこなう様にしました。

3. 築理会の活動に長年、貢献した役員・幹事の方には、築理会の活動を退くにあたり、「名誉幹事の称号」を与え、永久に会員活動の功績をたたえることにしました。過去に遡って、名誉幹事の指名をさせていただきました。名誉幹事に指名された方には、ご本人への通知を致しまして、総会に出席していただき、皆さんで労いたいと思います。

4. 近年、築理会報を送付しても、返送される会員が多くなりましたので、10名以上の会員が所属する企業を選定し、企業内の会員のご協力の下に、一斉に、「名簿確認作業」を実施しました。その結果、約1500名以上の方が「名簿の内容の更新」ができました。

5. 「築理会を在学生にPRする」一環として、「築理会のPRポスターを作成」し学内に掲げ、また、研究室単位に、「築理会学生幹

事」を指名させていただき、築理会との連絡役として位置付け、築理会名簿を販売のお手伝いをしていただきました。名簿を購入すると、卒業時の会員登録ができるように致しました。16年度は20名の新規会員の加入が在りました。

6. 築理会から、卒業生の饒に、在学中に優秀と認められた学生の方に、「築理会賞を贈呈する」とし、今年度から実施いたします。

7. 毎年、総会後に行われる懇親会は、昨年、「終身会懇親会」、「卒業後20年、30年の同期会」を開催していただく事を企画しました。

8. 卒業後、30年を経過した会員には、終身会員(119名)登録制度がありますが、「終身会員向けゴルフの大会」を呼びかけました。その会が「築娛会」として定着し、この4月には、第4回の築娛会が行われます。

その他、会報や、名簿に、「個人企業広告」、「HPに社員募集広告」など、企画を考えています。築理会の活動は、会費を払っている会員のための会でもあります。築理会の活動に、ボランティアで活動していただける会員の方が居りましたら、幹事を通じて、または、HPからでも参加登録をいただけます。ご参加をお待ちしています。

築理会では、会員の方が益々発展し、理科大学建築学科の卒業生が社会の各方面で活躍しやすいように、お手伝いができれば何よりと思います。卒業生の方には、築理会の会報に同封されます、振込用紙で、年会費(3500円)を必ず納めていただき、築理会では、集まった会費に見合う、企画をこれからも、実施していきたいと思っています。これからも築理会の活動にご協力ください。

築理会賞規定

(目的)
第1条 建築学科(旧)1期の各専攻を卒業する学生を対象に、築理会への入会を目的としてこれからの社会で大いに活躍していただく、はなむけとして、賞を贈呈する。

(表彰対象)
第2条 対象は次の中から該当するものに対して行われ、次のとおりとする。
① 建築制作が特に優れていると認められる者
② 卒業成績が特に優れていると認められる者
③ 学生生活中心に優れた活躍をし、社会的にも優れた評価を得たと認められる者

(推薦)
第3条 表彰の推薦は表彰基準に該当するものを、建築学科主任教授に委任する。

(表彰の方法)
第4条 表彰は卒業式当日に、表彰状等の授与を行う。

(表彰の開始)
第5条 表彰を行ったときは、推薦者を会報に掲載し、築理会の場でも報告する。

付則 この規定は平成27年1月1日より施行する。



人と自然そして建設が共にある未来へ。グランドデザイナー、カジマ。

カジマ
東京都港区元赤坂1-2-7 〒107-8388
http://www.kajima.co.jp/

築理会賞受賞者発表

3月19日の卒業式において、築理会賞の受賞者が発表され、森本会長より、各受賞者に賞状と副賞5万円が送られました。



左から佐々木恵さん(部設計賞)、清水珠里さん(部成績賞)、岩本文江さん(部成績賞)、中川忍さん(部設計賞)

部設計賞受賞者 佐々木 恵さん

私の理科大生活4年間は楽しい事やつらい事、本当に多くの出来事がありました。今思えば全てがかけがえのない良い思い出です。中でも、学生時代の自由な時間を使って行った旅行で、傑作と言われる多くの建築物を見たことが、自分を成長させ、結果的に学生時代最後の制作で、名誉ある築理会賞を受賞することができた要因となったと思っています。今年からできたこの賞を偶然にも私がいただけたことが、自分自身にとっての誇り、そして将来への励みにもなりました。これからこの賞を続けていくことで、受賞する多くの後輩たちにもこの思いを感じてほしいと思います。



佐々木さんの作品
「Pallet-Futamata-gawa Renovation-」

最後に、私が大学生活の中で出会えた全ての方々に心から感謝します。

部成績賞受賞者 清水 珠里さん

私は昔から目立ちたがり屋で、人に褒められたりするのが大好きなので、今回の受賞はとても嬉しいです。本当にありがとうございます。

ざいます。

思い返してみれば、私は大学でいつも笑いの絶えない楽しい毎日を過ごしてきました。課題やテストや卒論は大変だったけど、友達と過ごす時間が大好きで、大学に行くのはいつも楽しみでした。こうして築理会賞がいただけたのも、私の大学生活をそんな素敵なものにしてくれた、友達や先輩方、先生方のおかげです。4年間、本当にありがとうございました。卒業するのは寂しいけど、これからも私の毎日が素敵なものになるよう、がんばっていききたいと思います。

部設計賞受賞者 中川 忍さん

まるで武者修行でも終えたかのように設計課題を提出して「まあ楽しめた、終わった...」と思い、しばしの休憩のあとに次へと進む。自分が意図したか否かに関わらず、ものごとは削ぎ落とされ本質は手の掌にのるようだ。複雑にステップアップしていかなくてはならず、建築は特殊な世界であることを考えると気持ちが後退することもあるが、今、卒業設計を終え光栄な賞を頂き、自分がこの道を歩んでいくことは間違いないだろうと思う。



中川さんの作品「20世紀ゲノム」

部成績賞受賞者 岩本 文江さん

周りの方々の暖かい励ましに支えられ、また共に学んだ級友たちから幾度となく助けられながら過ごした四年間でした。今振り返れば、よく体を壊さなかったと思うほど、仕事と勉強の両立は厳しいものがあり、課題の提出はまさに時間との戦いでした。このような状況のなか無事に卒業することが出来、更に築理会賞を頂くことになり、身にあまる思いがすると共にとても嬉しく思います。これも周りの方々のお陰だと大変感謝しております。理科大で過ごした4年間は、私にとって貴重な時間であり、とても思い出深い日々です。仕事の大先輩にあたる方から「建築は一生勉強です」とのお言葉を頂きました。今後も学ぶ姿勢や初心を忘れること無く、社会人として頑張っけてゆきたいと思っています。

建築士“名門校”日建学院

V29達成! 学科・設計製図試験ともに **全国No.1**

1級建築士最終合格占有率

65.9%

平成元年～16年までの平均

2級建築士最終合格占有率

55.1%

平成元年～16年までの平均

建築と同様の講座も抜群の合格実績を誇っています。本試験に向け日建学院が誇る、業界トップの伝統と実績で合格へ導きます。

※講座によっては既に締切らせて頂いている講座もありますので予めご承知おき下さい。

教育訓練給付金制度対象講座多数あり、お問い合わせは下記フリーダイヤルまで。

リアルタイム

Web+通学講座開講!

忙しい人が無理なく取り組めるWEBを使用した自宅学習と通学の組み合わせで、資格の取得を提案&成功へのサポートをします。

建築資料研究社の主な出版物

建築設計資料/基本建築基準法関係法令集 (建築士試験場持込み可) ほか多数

1級建築士学科

2級建築士学科

宅地建物取引主任者

FファイナンシャルPプランナー

2級福祉住環境コーディネーター

測量士補bb(web講座のみ)

ブロードバンド専用bb講座

技術士補 開講!

全国135校・660常備教室建築関連資格教育のパイオニア

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-50-1

日建ワールドハウジングセンター

日建学院コールセンター

日建学院

株式会社 建築資料研究社

0120-243-229 (東京)

URL: <http://www.ksknet.co.jp/nikken/>

メディアコード: 00219

三重県熊野古道センターと新たな檜の空間

堀部 雄平(部35期)

株式会社 建築研究所アーキヴィジョン

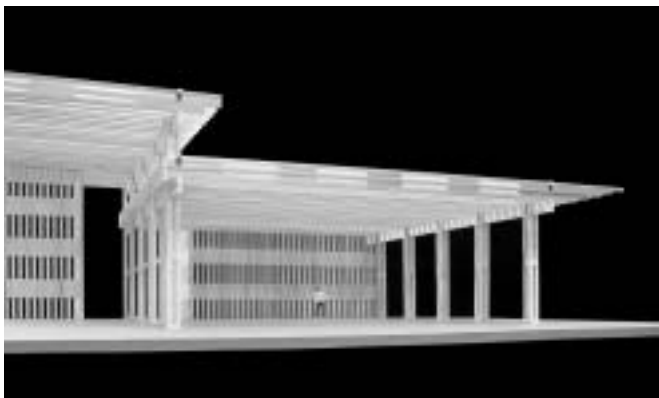
2003年の暮れ、世界遺産の登録を目指す「紀伊山地の霊場と参詣道(熊野古道)」の情報拠点施設「熊野古道センター」の設計プロポーザルが三重県で行われ、最優秀に選ばれました。

「熊野古道」は、中世、日本最大の霊場であった熊野へと続く参詣道であり、人の手による構築物である「道」が長い時間をかけて自然と一体化し、現在でも豊かで力強い姿を現しています。それは私達の心に語りかける日本の風景の一つと言えるでしょう。

そこで私達は、地場の木材を活かした新しい木構造を提案し、紀伊山地の自然と協調し、世界遺産の拠点施設としてふさわしい風格をもつ建築と風景との調和を目指しました。

この計画で試みる木構造とは、地場の材である「尾鷲ひのき」の4.5寸角(135mm角)の無垢材を、現代の感性と技術で組み合わせて大空間を構成する、いままでにない構造システムです。4本組の「組柱」、5段組の「組梁」、角材を格子状に結合した「組壁」全てが135mmという統一したモジュールによって構成され、深い庇を持った伝統的な柱・梁の架構の持つ力強さと、スリットによる寄せ木細工の様な繊細さを持ち合わせた木の空間を実現します。

この構造システムを採用したのは、これが「尾鷲ひのき」の美しい質感と他の檜に優る強度を生かしたものであり、



コンセプトモデル：「尾鷲 ひのき」の4.5寸角の無垢材を組んでつくられた組柱、組梁、組壁 によって全体が構成される。



左上・構造試験 : 約14.5mの実物大の組梁を1体製作。熊野古道センターでは組梁は計220体の組梁が架けられる。

右上・構造試験 : 構造試験の様子。組梁に計4tの荷重をかけた状態。

左下・スプリットリング: ステンレスリングを半分ずつ埋め込みながら木材を重ねていく。

かつ力学の基本である伝統的な斗きょう組構造と、柱をせいの高い欄間で拘束する伝統的木造軸組構造に倣った一般寸法の無垢材で可能な構法であったためです。

しかし、無垢材と他に例のない構造形式との組み合わせに対し、コンピューター上のシミュレーションだけでなく、実物大の組梁の試験体を製作し、構造試験を行いました。14mを超える1本の組梁に合計4t以上の荷重を架けていくというものです。その結果構造計算通りの数値を得ることができました。

こうして2006年の秋の完成を目指し、世界遺産にふさわしい木空間の構築と、なによりも人々が今までにない空間の中で豊かな時間を安心して過ごすことにつながる作業を一步一步進めています。



外観パース: 熊野古道センター を広場越しにみる。



人がつくる、人の場所。

そこには落ち着ける空間があります。そこには快適な環境があります。

そして、そこには豊かな時間が流れています。

大切なのは人の息吹が感じられる場所であること。

私たちはこれからも想いを込めてつくり続けます。

SHIMIZU CORPORATION
清水建設
<http://www.shimz.co.jp/>

学生活動報告

木工コンペとコラボレーション

溝口 省吾(部25期)

昨年、富山の高山町で毎年開催されている「LIVING ART IN OHYAMA」というイベントの一企画である「こどものための木道具」という家具コンペに参加しました。建築学科を含むデザイン系を専攻する都内の学生がデザインを担当、技術者を養成する富山の職芸学院の学生もしくはそのOBが製作を担当し、2人一組で競いあうというもので、私を含めて計5組の参加でした。5月初旬に初顔合わせをし、11月の提出まで約6ヶ月間、3度富山を訪れ打ち合わせを重ねました。我々の提案内容は、色や質感の異なる9種類の角材をランダムに組んだパーティションを複数枚づくり、そのあいだを子供が通るときにあたかも森の中をすり抜けているような感覚を得ることができるというものでした。模型などで綿密にスタディし、サイズや種のセレクトを行なったのですが、実際の完成物が狙い通りの効果を発揮し、展示会場で作品に触れ遊ぶ子供たちの姿を見たときは本当にうれしかったです。また、異なる環境や価値観の人と共同で進めていくことの意味疎通面の難しさも貴重な経験となりました。製作者の方には多額の費用と製作時間のかかる設計に賛同していただき感謝してやみません。他

大学の建築学科以外の学生と触れ合うことも大きな刺激になりました。残念ながら結果の方は最優秀とはいかず、審査員特別賞(しかも最優秀のチーム以外全チーム)でした。今後もこのような企画に時間の許す限り参加していきたいと思います。



築理会サークル活動報告

大先輩の皆さん、有難うございました

廣重 隆明(部17期)

縁あって、「第3回ちくご会ゴルフコンペ」に参加させて頂きました。本来、この会の参加資格は卒業後30年以上なのだそうですが、枠が空いたということで回りまわって私に声がかかりました。今までは、会費を思い出した程度に納める程度で、築理会活動をしていただけでもなかったのですが、多くの大先輩たちと知り合える機会だと思い参加させて戴くこととしました。なぜこんな気持ちになったかですが、このところ仕事をしていく中で、理科大は同窓という繋がりが希薄だと感じており、他の大学の卒業生を羨ましいと思ったりしていたこともあり、思い切って参加することとしました。



さて、ゴルフですが初対面の大先輩に囲まれてスタートは喉がからからに渴き、ティーショットが何とかボールが見える範囲に飛んでほっとしたことがつい先ほどの出来事のように感じています。徐々にこんな緊張感を味わいました。・・・ホールが進むにつれ、先輩たちとも会話が弾み一日楽しくまわらせて戴きました。先輩の皆さん、どうもありがとうございました。今後とも、空きがありましたらお声をかけて下さい。

<終身会員会より>

当日は林さんの手配により、思い川東急ゴルフクラブで、15名の参加を得ました。最も遠くから来た石神さんは朝4時起きで、熱海から駆けつけてくれました。

当日の天候は良好で風もなく、80台の好スコアが続出し、ハーフ38で回った6期の柏山さんが優勝しました。また、森本会長から1万円の寄付を頂き、優勝者には、副賞として車1台(チャンと動きますが、とても小さく、人は乗れません)が贈られました。

次回は4月2日(土)に予定しております。奮ってご参加ください。



人がいきいきとする環境を創造する

大成建設株式会社

<http://www.taisei.co.jp/>

築理会ランナーズ活動報告

今年も恒例の駅伝大会に参加し下記の成績を納めました。月例の練習会に皆様のご参加をお待ちしております。詳しくは築理会ホームページをご覧ください。(入野)

大会名：EKIDENカーニバル2004西東京大会
 日時：2004.11.13
 種目名：23kmロング走 友・クラブ男子の部
 タイム(グロス)：1時間45分29秒
 総合順位：216位(962チーム中)
 種目別順位：85位(218チーム中)



左から、佐野、江口、山下、入野

県人会活動報告(和歌山)

在京メンバーは少数ではありますが、30年近く継続しています。年齢も20年以上の差がありますが、同郷・同窓の繋がりは強く懐かしい方言をまじえて交流活動しています。(廣谷)



平成17年会費納入のお願い

現在、平成17年度の会費の納入をお願いしております。同封の振込用紙にて、お振り込み下さい。今後のさらなる築理会発展のため、多くの方のご協力をお願いします。
 年会費 3,500円
 加入者名 築理会
 口座番号 郵便局 00110-5-171952

同窓会活動報告 - 部14期 (1975年入学又は1979卒業)

久しぶりに14期の同窓会を開きました。卒業以来の顔合せになったメンバーもいて一挙に学生時代にタイムスリップし予定時間をオーバーし夜更けまで語り合い楽しい一時を過ごしました。

今後も定期的に会を開きますのでお気軽に参加下さい。今後の予定は築理会ホームページにも掲載しますのでご覧下さい。(佐野)



「編集後記」

築理会賞の受賞式には、取材で同席しましたが、受賞者の名前が発表されたとき、清水さんが飛び上がって喜んだのがとても印象的でした。築理会の存在を学生達にとっても強くアピールできた瞬間だと思います。森本会長との記念撮影の時も、本当に皆さんうれしそうでした。(広谷 純弘hiro@archivision.co.jp)

築理会報2005春号

2005年4月発行 Vol.36

発行所：東京都新宿区神楽坂1-3
 東京理科大学工学部・部建築学科
 築理会事務局 03-3260-4271(内3293)
 03-3235-6897(FAX)

編集長：広谷 純弘
 編集委員：石神一郎、森清、伊藤学、伊谷峰、安達功、渋谷克也、
 諸岡伸幸、中川信浩、平賀一浩、大野紋子、東有紀
 印刷発送：グローバルシステム株式会社

訃報 杉山英男元教授逝去

去る2/18日、杉山英男先生が逝去されました。享年79歳。杉山先生は1986年2部建築学科の専任教授として就任され、1996年までの10年間研究室を持たれていました。その間、先生は学科主任、又、工学部2部学部長なども歴任されています。研究室の卒業生は10年間で、2部89名、1部は9年間で28名です。ご冥福をお祈りいたします。



超高層の性能評価のことなら、我々にご相談下さい

◆超高層建築物の性能評価

◆時刻歴応答解析を用いた性能評価(免震含む)

<TBTC構造性能委員会>

委員長 寺本 隆幸(本学教授)
 副委員長 和田 章(東京工業大学教授
 本学非常勤講師)
 委員 松崎 育弘(本学教授)
 委員 北村 春幸(本学教授)他4名

指定性能評価機関(国土交通大臣第19号)

株式会社 東京建築検査機構

事務局 構造性能評価事業部 鈴木(松崎研OG)
 TEL.03-5825-7545 FAX.03-5825-7540
 E-mail:info@tokyo-btc.com
 ホームページ http://www.tokyo-btc.com